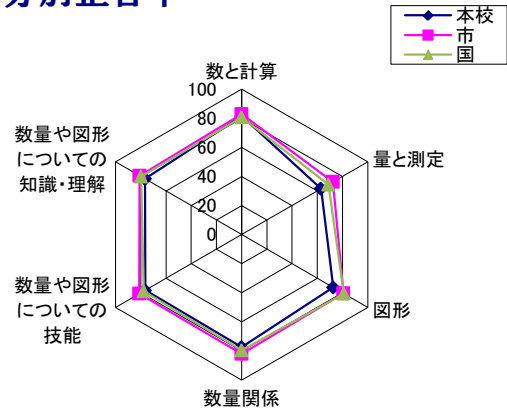


宇都宮市立海道小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

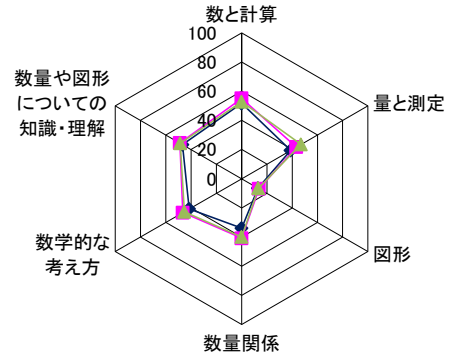
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	81.5	82.9	80.6
	量と測定	62.9	72.5	68.8
	図形	72.6	80.8	81.1
	数量関係	77.4	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	76.5	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	76.6	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	51.6	55.1	52.8
	量と測定	38.7	43.4	47.0
	図形	12.9	13.8	13.2
	数量関係	33.9	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	41.6	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	46.8	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、算数A、Bともに全国平均とほぼ同じである。 ○ 計算することができている。宿題や朝の学習でドリルやプリントを活用して、既習の内容の復習を行ってきた成果と考えられる。 ● 最小公倍数を求めることに課題が見られる。	・今後も、既習の内容の復習を宿題や朝の学習で行い、定着できるようにする。 ・授業で最小公倍数や最大公約数を学習する際には、それらの求め方を言葉や文章で友達に説明できるようにすることで理解させる。
量と測定	平均正答率は、算数Aが全国平均より5.9ポイント下回り、算数Bが全国平均より8.3ポイント下回る。 ● 重さ、長さについて任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶことに課題が見られる。 ● 仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求めることに課題が見られる。	・ものの重さや長さを同じ大きさのいくつ分で比較して考える問題を授業で取り上げ、解き方を話し合いの中で求めさせることで理解できるようにする。 ・授業で仮の平均から平均を求める問題を復習する。問題は、買い物をするときの金額の計算など、日常生活の中から作成し、実生活の中で活用させることで平均の求め方が理解できるようにする。
図形	平均正答率は、算数Aが全国平均より8.5ポイント下回り、算数Bは全国平均とほぼ同じである。 ● 正五角形は、五つの合同な二等辺三角形で構成できること及び立方体の面と面の位置関係を理解することに課題が見られる。	・デジタル教科書や実物投影機を活用して視覚的に指導することで、正多角形と二等辺三角形の関係や立方体の面と面の関係を理解させる。 ・習熟度別学習を生かして、理解の程度に応じた指導を丁寧に行う。
数量関係	平均正答率は、算数Aは全国平均とほぼ同じであり、算数Bが全国平均より6.1ポイント下回る。 ● 割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことに課題が見られる。	・デジタル教科書や実物投影機を活用して、割合を表すのに適したグラフを説明させることで目的に合ったグラフへの理解の定着を図る。 ・授業で児童の興味のある内容を割合のグラフで表す活動を行い、全体の人数や個数が違ってても割合から比較できるように理解させる。